

平成29年度 第1回 MCT放送番組審議会議事録

日時：平成29年11月29日（木）午前10時30分～

場所：MCT2階会議室

出席者：〈放送番組審議委員〉

美坂委員長 山内副委員長 山崎委員 野村委員 井之上委員 古川委員

〈MCT〉

山口社長 池田課長 岸川係長 帖佐主任 小松主任 中村社員 豊倉社員 脇園

司会：池田課長

書記：豊倉社員 脇園

1 あいさつ

山口社長：11月6日からの新編成で新番組と霧島市長選・市議選開票特別番組についてご意見をお願いします。視聴率分析した資料もあるのでそちらも参考によろしくをお願いします。

2 事務局報告

岸川係長：平成29年度の主な動きです。

3月：新編成「MCT情報局・新霧島放浪記」放送開始

3月：エリア内中学高校の卒業式（中学校7校・高校7校）全校放送

4月：小学校 入学式

6月：地元の高校球児を紹介する「球児たちの夏」を制作

7月：高校野球鹿児島大会 地元勢チームの1回戦を生中継

7月：霧島国分夏まつり特番制作

8月：台風5号接近による避難勧告情報をデータ放送で表示

10月：霧島商工会議所 創立20周年記念VTR制作

10月：霧島市インバウンド対策用観光VTR制作

11月：新編成「わっぜかTV・なんでんかんでん・新霧島放浪記」スタート
SNS（facebook・Twitter・LINE・Instagram）による広報強化

11月：霧島市長選挙・市議会議員選挙 開票特別番組 生中継

事務局報告に対する意見

古川委員：SNSは何か効果があったのか？

池田課長：突撃パイナップルのわけかTV、新霧島放浪記、なんでんかんでん、3番組それぞれでSNSを始めている。

岸川係長：Twitterに関しては、11月前後に始めたが現在フォロワー数が200人近くに達している。SNSを活用することでテレビ離れしていると言われている若い人にも番組情報等が伝わるようにしている。番組の情報だけではなく、その他の情報等も発信し、時代に合った方法で今後も取り組みたい。

井之上委員：番組内でもSNSの情報は出しているのか？

岸川係長：番組最後でフォローや閲覧を促している。

美坂委員長：霧島市長選・市議選開票特別番組はどうだったか？私も見たが、視聴者からの反応があってよかったと思う。

池田課長：霧島市長選・市議選開票特別番組は特に反応が多かった。

平均視聴率は放送時間が3時間で9.3%、最大瞬間視聴率は15.4%だった。

最大瞬間視聴率は新しい市長が決まり、喜びの声を即座にスカイプで中継し放送した点に加え、ENGカメラで撮影し記録したものを、現場の隼人体育館から放送したのでそれが数字に表れたのだと思う。

4年前の選挙では、スカイプで生中継をする技術がなかったがインターネットを利用し今回から取り入れた。

3 番組審議

美坂委員長：最初に「突撃パイナップルのわっぜかTV」は、市民がリポートするという
とでどう把握していいか困っているが、番組としては今まではMCTの社員が
インタビュー等をしてきたが市民もできるのだと関心を持った。皆さんが番
組を見て思ったことは？

山内副委員長：番組内の「知りたが〜る」のコーナーでお菓子のクイズがあったが、突然す
ぎてしっくりこなかった。突然だから良いのかもしれないが、もう少しひね
りが欲しいと思った。

「元気人が行く」のコーナーは、塩作りをする人の紹介があったが、この後
どうなるのだろうと思った。最後まで見ると、塩を作る熱意がとても伝わっ
てきた。しかし、重要な言葉を言っている場面でテロップがなかった。耳と
目、両方の情報が欲しい。

「MCT 学園アドベンチャー同好会」は、皆さん当日に初めて集まったとい
うことで、本人たちのテレビに映れることが嬉しいというのが前面に出
ていて、視聴者に中身が伝わらなかったのではないか。元気人の塩づくりみた
いな町を元気にするというテーマが欲しいと思った。3話まで放送があっ
たが、学生の動きが激しく、それにつられカメラワークが激しくなり目が回
る。逆に若い層には受け入れられるかも知れないが、高齢層にはよくない
のではないか。

MCの二人（突撃パイナップル）は慣れた進行で良かった。しかし、市長が
ゲスト出演し、話をしていた際、突撃パイナップルが腕を組んでいたのが違
和感を覚えた。今後ゲストで色々な方が出演されると思うがその辺りの配
慮が必要だと思う。

美坂委員長：突撃パイナップルは始良市出身で吉本興業の養成所で基礎を勉強したお二人。
鹿児島県内で「住みます芸人」をしていて、今年で3年目。各地の祭りやイベ
ントで活躍している。

MCTの番組内でもスタッフとのやりとりや司会にも余裕があったと思う。話
は「知りたが〜る」に戻るが、お菓子の店舗紹介に関して全体的に意見は？

古川委員：店の住所が番地のみではわかりづらい。地図を出したり、〇〇の近くと説明する
等、視聴者が見てすぐ買いに行けるような情報の出し方が良いのではないか。お
店の前を歩いてすぐ気付くような伝え方が良いと思う。クイズは確かに突然だ
った。出題する際にお菓子が3種類並んだ映像がどれがどれだかわからないか

ら、それぞれにテロップ、番号などをふってほしかった。突撃パイナップルのコメントも「おいしい」だけでは素っ気無い。協力してくれた店舗の商品をもっと大切にしてほしい。

加えて番組は途中から見たりすることもあるので、最初だけではなく途中にも店舗情報を出すなどの工夫をしてほしい。

美坂委員長：他にご意見は？

山崎委員：番組を見て感じたのは、MCTのみなさんが地域密着型で住民が主役の番組はどうすればできるのかを真剣に考えてやっているのだということだ。社員が市民目線で仕事をしているということを強く感じた。選挙もケーブルテレビだからこそ普通のメディアとは違って住民に身近でわかりやすい放送ができていたのではないかと。すごいことだと思う。知り合いにも候補者が出ていたがとても親近感が湧いた。そして何をするにしても人。突撃パイナップルを選んだ理由を知りたい。また市民が主役になっているが、市民レポーター自身が、どうすれば視聴者に伝わるか考えなければいけない。社員が頑張っても、出演者もアイデアをださないと良い番組は作れない。画面に出る人たち自身が視聴者の目線になって見てよかったと思う番組作りが重要。

野村委員：私も同意見で、番組自体は素晴らしいと思う。番組のオープニング映像（アニメーション）は気合が入っていた。それだけで格が上がる。他の番組にもそういうのがあればクオリティが上がるのではないかと。各コーナーに関して言えば商品などに対してもっとコメントが欲しいと思う。

山内副委員長：突撃パイナップルを起用した理由は？

小松主任：これまではMCTの社員がレポートや番組進行をしていたが、やはり慣れているプロにしてもらおう方が番組のクオリティが上がると考えた。突撃パイナップルのお二人は鹿児島県の「住みます芸人」で隼人工業高校出身、霧島市内でもよく遊んでいたという話を聞きこのお2人に依頼した。

山崎委員：二人とも爽やかで良いと思った。

美坂委員長：MCT学園アドベンチャー同好会は第一工大の学生たちが出演していたが、今後の番組の信用をつかめないのではないかと。自己紹介や学生たちのやりとりは面白かったがそれ以外の部分では番組の目的がわからない。

井之上委員：「キレカワ女子の知りたが〜る」はきれいでかわいい人が行くという名目ならそれにあったコーナーの締め方が必要。きれいな人が食べているから良い、とか可愛い人がやるから良い、などそういう編集や映像が必要なのではないか。「元気人が行く」は知り合いが出ていたので意外な面が見られて良かった。だが次を見たいという思いにならない。鴨田思い通りの話はどういう方向で進み、どのような結果になるのか気になる。シリーズで次回も同じテーマの内容なら、次回が気になるような編集ができるかどうか重要。「MCT 学園アドベンチャー同好会」では、私のような若い人でも目が回るような動きがある。(出演者の激しい動きとそれに伴うカメラワーク) 市民に完全に任せるだけではなくプロの指導も必要なのでは？

美坂委員長：「元気人が行く」は塩の作り方を見てとても興味を持った。作るのがいかに大変なのかが映像から伝わってきた。

山内副委員長：その塩だが、スタジオで試食するだけでなくどのような料理に合うのかを伝えるべきでは？

山崎委員：ただ塩を作っている場面を追うだけではなく、錦江湾の海水で作られた塩の特性やニーズ、どのように使われているのかが知りたい。

山内副委員長：塩にも様々な種類があるので、スタジオで MC が試食した後、そのコメントを見て「塩ですね。」だけで片付けて良いのか？と思った。

古川委員：塩にはいろんな使い方があるからそれを紹介するのはどうか？

山内副委員長：コーナーを見て続編で塩をどう活用するのかをやるのかと思った。

山崎委員：塩の紹介に限ったことではないが、例えば「知りたが〜る」でのお菓子は他にはどういう所で販売されているのかを紹介してほしい。

山口社長：何を伝えたいのかよく分からないというのは同感。新編成で始まったばかりなのでヒヤヒヤしながら見ているが良い方向に進むように期待したい。視聴者に対しては、番組を見たい人を区別して放送しようという動き。見ない人は見なくていいという考え。そういう意味でコーナーごとにターゲットを絞っている。そういう意味で MCT 学園アドベンチャー同好会は、中学生や高校生がターゲットになっているので目が回るような動きになってしまうかもしれない。

池田課長：1ヶ月足らずで番組制作をしたが、お店と視聴者の求めている情報をうまく盛り込んでいけるようにロケの内容やお店の紹介の仕方を日々試行錯誤している。今後は塩の話で言えば、ご意見頂いた通りどの料理に使うか紹介するなど改善していきたい。

山口社長：元気人の塩づくりは完結したのか？

中村社員：はい。2回目はかもだ思い通りをテーマにしたが、初回の元気人は、このコーナーがどのような内容なのかを説明するためにこのような形にした。(塩作りをする黒江さんの紹介)

山崎委員：非常に良かった。元気人、次はどのような人が出演するのか期待している。

美坂委員長：塩づくりはシリーズ？

中村社員：塩の紹介は初回のみ。今後は様々な元気人（レポーター）を取り入れる予定。

山内副委員長：霧島でも問題を抱えている所はたくさんある。今後はそこをピックアップするのも手ではないか。

古川委員：「元気人が行く」が一番好き。ナレーションも鹿児島なまりで親近感が湧いた。大切な人と食べてほしい、という想いやその塩が何に合うのかを本人が言っていたので良かった。しかしMCのゲストに対する茶化しがきついと思った。出演する人をもう少し大切にしてほしい。(容姿に対するコメントや、食べた物に対してのコメント等)
番組構成はよかったが、MCはもう少し工夫を。もし自分が出演したら何を言われるか不安。一般市民の容姿についてコメントしていて残念。

野村委員：VTRに対してのコメントだからその場で出演者がフォロー出来ない。スタジオにいればフォローが出来るが。

山内副委員長：MCのVTRのフリ方が下をむいて原稿を読むだけなのはどうか？

山崎委員：全体的に見てこの3つのコーナータイトルには非常に興味が湧く。とても良いと

思う。

美坂委員長：ディレクター3人は自分で番組を担当してみてどうでしたか？

帖佐主任：今回は初めての企画だったのでどうしたら視聴者に楽しく情報を伝えられるか考えた。「知りたが〜る」のクイズは確かに突然だった。放送尺が限られていたため、突然のクイズという形になった。クイズには、確かに商品名や番号が必要だと感じた。レポーターは現在5人ほどいるため、紹介する内容にあわせてレポーターを変える方針。

岸川係長：どういう情報が視聴者に喜ばれるのか？視聴者が見たい番組とは？地元テレビ局にしかできない番組作り、民放との差別化を図りたい。「知りたが〜る」も民放のようにはなっているが、そこを差別化するために市民をレポーターとして起用している。今後どのような番組作りをすればよいか皆さんのご意見をいただきたい。

古川委員：「知りたが〜る」でクイズ形式にしたのは良かった。ただ見るだけではなく、視聴者も考え番組に参加できるから。クイズが突然だと思ったのは、リアルタイムでは番組を巻き戻して見ることはできないため、どういう所に気を付けて見ていればクイズに答えられるか分かるように工夫して欲しかった。そうすれば自分もクイズに参加できたのかなと思う。

民放との差別化はできていると思う。車ですぐ行けるような店舗を紹介している点など、地元のお店など視聴者が知らない情報を発信しているのは良い。毎回市民レポーターを探すのは大変だから、「笑っていいとも」のように次のレポーターを紹介してもらうのはどうだろうか？地元経済が活性化するような番組作りができたら良い。例えば、MCTに出演すれば今まで自分の店を知らなかったような人にも知ってもらえて、ファンができる。お客さんが増えて他の店舗からも出演依頼が来る。そういう循環ができれば視聴率も上がるのではないかな。

SNSも各番組しているということで拝見したが、ハッシュタグがとても大事だと思う。投稿内容に#霧島市や#店舗名などを出すことで、番組内だけではなくそれを探している人に向けて情報が発信できる。#霧島市 #スイーツと検索した人が偶然この番組に辿り着く可能性もある。

(2)霧島市長選・市議選 開票特別番組 11/19

山内副委員長：気になる点として、帖佐さんの候補者の名前発表のナレーションは敬称略でよかったのではないかな。

山崎委員：今の意見に対し、地域密着のケーブルテレビだからこそ「さん」をつけるのには意味があるのではないかな。地元だから身近なので親しみを込めて「さん」づけるのは良い点だと思う。他の局に合わせる必要はない。それも個性だと思う。

野村委員：私も親しみを込めて「さん」づけでいいと思う。知り合いも出ているので。自身も候補者として出馬したが、MCTの生中継によって選挙事務所は一体感が生まれて良かった。しかし映像がずっと変わらずカメラ台数が少ないのでは？と思ったがその理由は？スカイプ中継が所々止まったのも気になった。機材的にあれが限界なのか？開票までの待ち時間に他の映像を入れることはできなかったのか？

美坂委員長：今回の開票速報を見て、開票だけにこだわっていると感じた。当選者が決まった後の住民の声があれば良かった。また落選した前田さんの言葉も聞きたかった。もう一つは予算の問題もあるだろうが、選挙に詳しい人等に出演してもらい、予測や現状の意見を貰うことなどが出来たのでは思う。

山崎委員：私は結果だけが知りたかったので情報の速さを求めていた。会場の映像が長かったのではないかな。

池田課長：以前は開票の途中にVTRを用意して放送していたが、現場の動きが気になるという意見があったので今回のような形にした。

山内副委員長：人の表情や会場の緊張感が伝わってきたのは良かった。「さん」づけに関しては敬称がつくことによって読み上げるスピードが遅くなる。「さん」を付けることで読み上げに時間がかかるより、次の人の得票数を早く知りたいと思った。

美坂委員長：始良市の選挙も中継されますか？

池田課長：はい。中継します。

井之上委員：中重新市長の喜びの声の中継が途中で入ったのはびっくりした。操作ミスなのかテレビ画面上にパソコン画面が出たりと不安はあった。そして地域密着のケーブルテレビだからこそ、中継で落選した前田さんの意見も聞きたかった。新市長の万歳やあいさつも必要だとは思いますが、前田さんの表情やコメントも必要だったと思う。

美坂委員長：前田さんは12年市長をされていたからそこも必要だったかもしれない。

井之上委員：選挙権が18歳以上に引き下げられたので、その年代のインタビューをする必要があったのではないか。

(3)その他 (MCT 番組やサービスに関するご意見など)

山内副委員長：FM きりしまの番組表が見やすくなった。対応していただきありがとうございます。12チャンネルで放送している「情報 BOX」内の車いすの和通信は良かったと思う。もっとその情報を発信すれば市民の共通認識になると思う。

新霧島放浪記はもっといろんな所で情報流すと良いのでは？番組内ではみんな必死なのが伝わってくる。和気あいあいとしていて、山口県までどういう展開があるのか期待感を持って見たいと思う。

以上